

[第 143 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5 年 10 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5 年 11 月 4 日 (土) 15時~17時
- 場 所 近江聖人中江藤樹記念館(高島市安曇川町上小川69)
☎0740-32-0330 (今回、会場が変わりますのでご注意ください)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.278~(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2023年10月7日(土)、安曇川公民館で第142回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都、大津からの参加者を入れて10名でした。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第六巻 淑睦報の序、第1話、第2話

■ あらすじ

序 淑睦とは夫の兄弟の嫁やその他の親族によく親しむこと。本来万物一体の仁心が備わっているものなので心に惑いが無い限り親しくできる。(以下略)

■ 配布資料

(1)「まなざし 461号」、(2)森信三「全一的人間学」、(3)道元「利行は一法なり」「道を得ることは根の利鈍には依らず」、(4)ネルケ無方「今日死ぬことで、明日を生きることができる」

■ 今日のポイント

- ・ 私たちに本来、万物一体の仁心が備わっているということは、森信三師が「全一的人間学」で説かれる、我われ人間自体が、絶対的「いのち」である大宇宙生命(神)の分身である、とつながる。
- ・ 「利行」とは自分をむなしくして他の利益をはかる行為であるから、自利も他利も一つになったものである。あまねく自分にも他人にも利益するのである。(道元)
- ・ 「いまを生きる」ということは、「今日が自分の最期の日になるかもしれない」と思って生きるということだ。そうすることで、今日という日を、自分の人生の中で最善の一日にすることができるだろう。「今日を死ぬ」という覚悟は、決してネガティブなことではない。そうではなく、いまを楽に生きられるために必要な気づきなのだ。(ネルケ無方)

■ フリートーキング

- ・ 「兄嫁が実子を弟にあげるというのは極端な話だ」→「兄嫁は今まで育ててきた養子をそのまま育て、実子は信頼できる弟にあげるのは分かる気がする」→「女性の感覚ではそうなるのかと納得した」
- ・ 「淑睦の心は男性でも必要だ」。
- ・ 「他人に打ち勝とうとするよりも、昨日、今日の自分を少しでも高めていきたいと思った」
学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

